

## 6 Vehicle Manager®

# IoT活用で働き方改革を実現する 車両管理サービス「Vehicle Manager®」

昨今の「働き方改革」の社会への広がりや、相次ぐ痛ましい事故情勢を踏まえ、社用車を保有する企業にとって車両管理業務の自動化や安全運転に対する取り組みの重要性が高まっている。NTTコミュニケーションズ（以下、NTT Com）は、車両管理を手軽にセキュアに実施し、安全運転を支援する「Vehicle Manager®」を提供している。

### 運行日報の効率化や交通事故の削減をIoTでサポート

NTT Com は 2016 年 8 月 より、車載器設置により車両管理を実現するテレマティクス\*<sup>1</sup> サービス「Vehicle Manager®」を提供している。

一般的に社用車は、会社の資産の中で管理が最も難しい部類といわれており、所有する企業では交通事故が減らない、運行日報を作成・管理するのが手間、などの悩みを抱えている企業が少なくない。社用車の事故は事故対応処理や保険手続き等に多くの手間が発生する。また、日報等の作成については、アナログな手段で作成・管理をしている企業が多いのが現状だ。これにより、長時間労働や事故発生による責任や損失を受けるなど、さまざまナリスクを抱

えることになる。

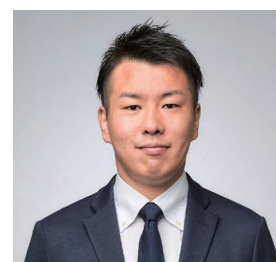
このような課題を解決すべく、「Vehicle Manager®」は、通信機能や GPS 機能を内蔵した車載器を車両に設置してデータを収集し、クラウドに集約。取得データを分析し、車両ごとの日報の自動作成や運転傾向分析など多彩な機能をアプリケーション上で利用できる。日報作成等の車両運行状況管理や安全運転の把握・指導が容易となるほか、事故削減による事故処理費用や保険料等の関連コスト削減を実現する。

特長として、①車載器の設置が 10 秒で完了できること、②セキュアな通信環境であること、③累積コストが安価であること、があげられる。

車載器を標準ポート\*<sup>2</sup>に差し込むだけなので、お客さまご自身で設置し、すぐにサービスを利用できる。

また、車載器とクラウド間の通信は、NTT Com の閉域網を使用することで、外部からの攻撃に対するリスクを低減している。

さらに「Vehicle Manager®」は、SaaS 型で提供し



NTT コミュニケーションズ株式会社  
経営企画部 IoT 推進室  
担当 川本 祐輝氏

ており、車載器を購入いただく分ランニングコストを安価にしているので、長期間使うほど累積コストが非常に割安になる。

### 導入のカギは「監視」ではなく「守る」

車両管理は、社員の行動監視ではなく、万一の事故の防止や時間外労働の削減など「社員を守るためのサービス」であることを社員に理解してもらうことが重要だ。

「働き方改革」が社会に広がりを見せるなか、車両管理業務 IoT を活用することで、業務効率化や適切な安全運転支援等、お客さまのビジネスの発展等に貢献していきたいと考えている。

\* 1 Telecommunication (通信) + Informatics (情報科学) 自動車などの移動体に通信システムを組み合わせて、情報サービスを提供すること。

\* 2 On-Board Diagnostics の略 自動車に搭載されている自己診断機能を意味し、主として異常や故障診断のために使われている。



図 1 「Vehicle Manager®」の特長